

みくに



〈桜の日の散歩道〉

2023年 標語 聖句

「あなたの重荷を主にゆだねよ
主はあなたを支えてくださる。」

詩編 55篇 23節

社会福祉法人 みくに園

障害者支援施設 みくに成人寮

TEL: (0879) 68-3104 FAX: (0879) 68-3920

〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦902番地1

HP: <http://www.teshimamikunien.com>

「心の距離」

副施設長 高橋 香織

「ソーシャル・ディスタンス」ここ数年間に何度も耳にした言葉です。「社会的距離」という意味を持ち、コロナ禍では3密を避け、人と人との距離を置くことと同様に使われています。今は聞き慣れた言葉ですが、マイナスなイメージを持っています。

同じコロナ禍での言葉でも、昨年、夏の甲子園で優勝した仙台育英高校（宮城県）の須江航監督のスピーチは、多くの人々の心に響き感動を生みました。一節を紹介します。

「今の高校生は、僕たち大人が過ごしてきた高校生活とは全く違う生活を送っている。青春って、すごく密なので。でも、そういうことは全部だめだと言われて、活動していてもストップがかかって、いつも止まってしまうような苦しい中、本当に諦めずによくやってくれた。」とコロナ禍で青春時代を過ごした全国の高校生に向けた言葉でした。その言葉は同じように大変な時を過ごしてきた私たちへの労いにも感じました。

「すごく密なので」は私たちが置かれている福祉の世界にも言えることです。利用者さんと顔を近づけて話をしたり、大きな声で歌ったり、時には体を密着し介助をすることもあります。しかし、この数年間は、密を避けなければなりません。マスクをしているため、顔の表情がわからず、伝わりにくいのでは？と感じることもありました。そんな中での発見もありました。それは、みくに園内でコロナクラスター発生時の出来事です。防護服とフェイスシールドで覆われた私が、食事の迎えにある利用者さんの部屋を訪ねた時のことです。いつものように声をかけると、ベッドで横になっていた利用者さんは、何のためらいもなく、私に手を差し出しました。私は、こんな姿でもわかってあげていることがうれしくて、両手で握り返しました。日常の小さな出来事です。私には特別な出来事に思えました。

いくらコロナでも心の距離を離すことはできませんでした。今まで培ってきた関係は、こんなことでは崩れないことを確信しました。毎日毎日一緒に過ごした日々が物語っています。

人と人との距離を置くことはまだまだ必要かもしれません。しかし、心の距離は、今も、これからもずっと「すごく密」でありたいと思います。

公益財団法人 森村豊明会助成事業報告

助成事業名	医務室整備事業
事業目的	利用者が安心して施設内で診察や治療を受けることができる
業者	尾路医科器械株式会社
費用	総費用 2,338,940円 助成額 2,000,000円 自己資金 338,940円
完了日	令和5年 4月7日

この度、公益財団法人森村豊明会から助成を頂き、念願だった医務室のリニューアルが完成しました。この医務室は、主に歯科や鍼灸、内科、精神科の訪問診療に使っています。

利用者さんが診察や治療を受けるのに、リクライニング車椅子やベッドが必要な場合があります。新しいリクライニング車椅子は、座位保持効果が高く前方へのずれや臀部へ体圧が集中するのを軽減してくれます。時間を要する治療も、身体への負担が軽くなるのではと期待しています。また、突起物がないベッドは利用者さんを安全に移乗することができて安心です。

障害の特性上いろいろな物が気になる利用者さんにとっても、すっきりと整理された部屋は落ち着いて診察や治療が受けられる場所になりました。今後は、感染症発症時の隔離部屋、発作時の静養部屋、そしてパニック時のクールダウンの部屋としても、利用者さんのために有効に活用したいと考えています。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

(高橋 記



〈電動ベッド・サイドテーブル〉



〈車椅子を使っての歯科治療〉



〈診察〉



〈心電計〉



〈デスク・ワゴン・収納棚〉

壁面収納を設置することで、すっきりと片付けました。



〈洗面台〉

新しく洗面台を設置しました。手洗いやうがい、治療器具の洗浄も室内で行えます。

* その他、ワゴン・天井付けLEDライトも新しくなりました。

清水基金国内研修を受けて

去る2月18～19日、東京で行われた清水基金国内研修に参加しました。当基金は障害のある方々の福祉増進を図ることを目的とする助成事業を行うと共に、海外研修・国内研修も長年開催し続け、障害福祉の発展に寄与している団体です。今回は全国から集った20数名の受講者と共に、錚々たる顔ぶれの講師陣による、障害福祉の動向や権利擁護、地域における支援体制の構築など多岐にわたる、心のこもった講義群に加え、事例研究や個別支援計画作成のグループワークも行うという、大変充実したプログラムを体験することができました。他にも各地で活躍する同業の仲間たちとの交流など、刺激的なできごとが多々ありました。その中でも特に心に残ったのは「『ワクワクする支援』を心がけてほしい」という講師の言葉でした。『支援者がプランの段階でワクワクできる支援こそが、実行の際に利用者さんをワクワクさせることができる』というこの魔法の言葉を胸に、これからも日々、業務に勤しんでいきたいと思えます。(小澤 記)

自立課題 ビーズの色分け編

みくに園では、主に自閉症の利用者さんに向けて自立課題の取り組みを行っています。最後まで一人で達成できるように一人ひとりの得意なことを見極めながら、手作りしています。その中のビーズの色分けを紹介します。



〈大きめのビーズの色分け〉
4色で設定しています。



〈アイロンビーズの色分け〉
4色から12色まで準備しています。それぞれのスキルに合わせて設定します。



〈小ビーズの7色の色分け〉
細かい作業ですが、キラキラときれいな色が魅力のようです。



〈極小ビーズの色分け〉
とても細かいビーズですが、Iさんが得意です。かなりの集中力が必要です。

豊島小学校の児童会と豊島中学校の生徒会では、「キャップで助かる一つの命」として、ペットボトルのキャップを回収して、発展途上国の人へのワクチンを支援する活動をしています。みくに園も、この活動を応援したいと思い、ペットボトルのキャップを集めて、利用者さんと一緒に豊島公民館へ届けています。何より、ジュースやコーヒーが大好きな利用者さんが多く、キャップはたくさん貯まります。今までゴミとして扱っていましたが、このキャップで誰かの大切な命を救うことができ、うれしく思います。これからも、微力ながら利用者さんと一緒にこの活動を続けていきたいと思えます。

(川下 記)

キャップ回収



笑顔がいっぱい！

☆高齢者棟☆



毎日洗濯たたみ頑張ってます！！



ぽかぽか陽気のお花見



お弁当美味しいよ♪

4月3日お花見

今年のさくらは例年より早く咲き始め、お花見には花盛りでした。



新任職員紹介



堀本順一
所属：一般棟
得意なこと：柔道



島本瑞生
所属：一般棟
得意なこと：英語



千壽加恵
所属：高齢者棟
得意なこと：ガーデニング

〈お知らせ〉

- ・事務主任の宮本（旧姓：大西）紗央里が令和5年3月末で退職しました。
- ・産前産後休暇・育児休暇を取得していた柴田裕紀子が一般棟主任として4月より復職しました。
- ・2月13日～3月1日までの間の10日間、専門学校穴吹パティシエ福祉カレッジ子ども保育学科、高松短期大学保育学科の実習生を受け入れました。

編集後記

みくに園のイチゴを食べたことがありますか？みくに園のビニールハウスで育てているイチゴは「女峰」という品種で、ジャムやケーキ、お菓子の加工用としても高い需要があり全国的に重宝されています。ここでイチゴのトリビアを一つ紹介します。実はイチゴの本来の旬は春。クリスマスに合わせてイチゴの需要が高まるため冬のイメージが強いですが、1960年頃までは春～初夏が旬と考えられていました。その理由は屋外での栽培が主流だったからです。（現在はビニールハウスで人工的に春の環境を作っている。）利用者さんとの散歩道。ビニールハウスから春の風に乗って感じる甘酸っぱいイチゴの香り。思わず深呼吸して、体いっぱい春を感じています。

（宮本 記）

* みくにだよりへのご意見をお待ちしています。

E-mail: kgk03317@nifty.com

FAX: 0879-68-3920

みくにだより編集部：（157号 2023年4月発行）